

銅・アルミ

市況見通し

8月

銅

93%増だった。

6月の伸銅品生産は同3・7%増の5万2800トで、うち国内が同3・8%増、輸出が同0・8%増だった。

品種別では銅条が2万4045トで同48%増、黄銅棒が1万6088トで同47%増、黄銅条が9037トで同

銅輸出は、電気銅が105万円まで急落。その後、111万円まで回復した。このことから発生が無く、流通（一次問屋）

銅輸出は、電気銅が105万円まで急落。その後、111万円まで回復した。このことから発生が無く、流通（一次問屋）

需要因から急減し、銅スクラップは内需回復により微増となった。銅スクラップ景況予想

需要因から急減し、銅スクラップは内需回復により微増となった。銅スクラップ景況予想

需要因から急減し、銅スクラップは内需回復により微増となった。銅スクラップ景況予想

需要因から急減し、銅スクラップは内需回復により微増となった。銅スクラップ景況予想

需要因から急減し、銅スクラップは内需回復により微増となった。銅スクラップ景況予想

在庫は薄い。需要面は、前月に続き半導体不足に伴う自動車需要の減少が結果的に見られず、生産が急増傾向にある。

需要面は、前月に続き半導体不足に伴う自動車需要の減少が結果的に見られず、生産が急増傾向にある。

需要面は、前月に続き半導体不足に伴う自動車需要の減少が結果的に見られず、生産が急増傾向にある。

需要面は、前月に続き半導体不足に伴う自動車需要の減少が結果的に見られず、生産が急増傾向にある。

橋本アルミ取締役

橋本 健一郎氏レポート



銅輸入は電気銅が内需要因から減少し、銅スクラップが旺盛な外需に伴い増加した。

銅輸入は、電気銅が同54・7%減の495ト、銅スクラップが同7・8%増の8895トだった。

8月銅市況予想レンジ

LME銅セツルメント	9000~10000 ^{ドル}	機ばい
電気銅建値	102~115万円	機ばい
為替 (1 ^{ドル})	109~111円 (1カ月間TTM)	円安

銅輸入は電気銅が内需要因から減少し、銅スクラップが旺盛な外需に伴い増加した。

銅輸入は、電気銅が同54・7%減の495ト、銅スクラップが同7・8%増の8895トだった。

銅輸入は、電気銅が同54・7%減の495ト、銅スクラップが同7・8%増の8895トだった。

銅輸入は、電気銅が同54・7%減の495ト、銅スクラップが同7・8%増の8895トだった。

8月アルミ市況予想レンジ

LMEアルミ現物後場買	2500~2650 ^{ドル} (現物後場買)	強い
スクラップ	据え置きから プラス5円 (前月最終価格より)	強い

アルミ価格は2500~2600ドル台で高止まりした。このため流通（一次問屋）の在庫は玉不足が続くと見込んでいる。

アルミ

ただ、感染はするが実際のところ死亡者数は極端に減った。例えば人口の72%がワクチン接種を終えた英国では、死亡率がほぼゼロになってきている。このため感染拡大は防げるのではと見込んでいる。

ただ、感染はするが実際のところ死亡者数は極端に減った。例えば人口の72%がワクチン接種を終えた英国では、死亡率がほぼゼロになってきている。このため感染拡大は防げるのではと見込んでいる。

ただ、感染はするが実際のところ死亡者数は極端に減った。例えば人口の72%がワクチン接種を終えた英国では、死亡率がほぼゼロになってきている。このため感染拡大は防げるのではと見込んでいる。

ただ、感染はするが実際のところ死亡者数は極端に減った。例えば人口の72%がワクチン接種を終えた英国では、死亡率がほぼゼロになってきている。このため感染拡大は防げるのではと見込んでいる。

前者は、ワクチン接種により感染拡大が治まった欧米が、新株（デルタ株）に再び感

前者は、ワクチン接種により感染拡大が治まった欧米が、新株（デルタ株）に再び感

前者は、ワクチン接種により感染拡大が治まった欧米が、新株（デルタ株）に再び感

前者は、ワクチン接種により感染拡大が治まった欧米が、新株（デルタ株）に再び感

前者は、ワクチン接種により感染拡大が治まった欧米が、新株（デルタ株）に再び感

前者は、ワクチン接種により感染拡大が治まった欧米が、新株（デルタ株）に再び感

前者は、ワクチン接種により感染拡大が治まった欧米が、新株（デルタ株）に再び感

前者は、ワクチン接種により感染拡大が治まった欧米が、新株（デルタ株）に再び感

前者は、ワクチン接種により感染拡大が治まった欧米が、新株（デルタ株）に再び感

前者は、ワクチン接種により感染拡大が治まった欧米が、新株（デルタ株）に再び感

前者は、ワクチン接種により感染拡大が治まった欧米が、新株（デルタ株）に再び感

前者は、ワクチン接種により感染拡大が治まった欧米が、新株（デルタ株）に再び感